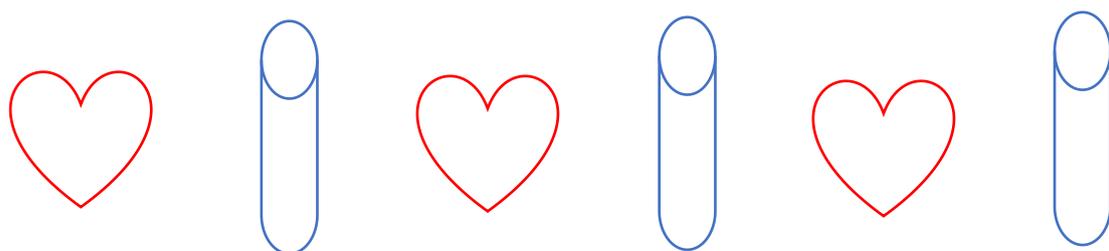


平和の鐘を鳴らそう 2025

平和についてメッセージ集



広げよう平和を思い行動する心

次の世代へバトンタッチ（終戦と被爆から80年）

P e a c e f o r T o m o r r o w

8月15日

広島ユネスコ協会

記憶を知り、記録を伝える

「知る」ことは受け取ること、「伝える」ことは受け継ぐこと。被爆 80 年を迎えるこの節目の年に、私たちがすべきことは「伝える」ことなのではないでしょうか。私は今まで、平和学習などで、戦争や原爆について「知る」機会が多くありました。しかし、ただ「知る」だけでは足りないのではないかと、最近思うようになりました。

どれだけ時間が経とうとも、戦争で苦しんだ人たちの思いを忘れてはいけません。その思いを伝えていくことが、今を、そして未来を生きる私たちの使命なのではないでしょうか。

1945 年 8 月 6 日。人類の上に初めて原子爆弾が投下され、今年で被爆 80 年という節目の年を迎えました。戦争や原爆の記録は本や映像の中に、記憶は被爆者の証言の中に、確かに残されています。私も、以前は「記録が残っているから大丈夫」だと思っていました。しかし、学校のクラブであるユネスコ班で活動しているうちに、その考えが間違っていたことに気づきました。記録も記憶も存在するだけでは伝わらないのです。

私はクラブ活動の一環として、平和記念公園の碑巡りに参加しました。慰霊碑や記念碑には名前、日付、数字、そして様々な言葉が刻まれていました。一見するとただの記録に見えますが、碑について理解を深めていくとその碑に込められた思い、叫びが聞こえてきました。しかし、私と同様に慰霊碑などを巡っていたのは、県外の修学旅行生や観光客の方が多く、地元の人々は少なく感じました。広島に住む私たちこそ、この記録と記憶に向き合っていくべきなのではないでしょうか。

平和とは、何も起きていないことではなく、誰かが過去を「知り」、今をみつめ、次の誰かに「伝える」からこそ成り立っているものだとは私は思います。

今を、そして未来を生きる人々の為に、私は伝えていきます。そして、それが誰かの「知る側」から「伝える側」のきっかけになれるように。平和への願いが、静かに、確かに受け継がれていきますように。

2025 年 8 月 15 日

広島大学附属高等学校 ユネスコ班 河田 実桜

Silence Brings No Peace.

The United Nations was created because of the great damage caused by World War II.

The UN Charter states that countries must not use force to take or break apart other countries' land. Unfortunately, wars are still happening in places such as Gaza, Syria, and Ukraine, where international law is often challenged.

Although the UN was founded with the hope of creating a peaceful world, some people now ignore the meaning of its charter.

It is unacceptable for any country to start a war in order to gain something from it. If people come to believe that war can bring benefits, wars will never end in the future.

I have been learning to play the piano for a long time, and I am currently practicing a piece called Crimean Sketches by Sergei Bortkiewicz, a composer from Ukraine. This music beautifully depicts the nature of the Crimean Peninsula.

The Crimean Peninsula is recognized as the territory of Ukraine under international law. However, Russia took it without Ukraine's permission in 2014, and since then, Ukraine has been under the threat of military attacks by Russia.

Some people say that making Crimea a part of Russia is a good idea to stop the fighting.

However, I worry about what will happen to the beautiful Crimea in the future.

When I think about future peace in Crimea, another thought also comes to my mind—it's about Hiroshima, the city where I live now.

The atomic bomb was dropped on Hiroshima in 1945, causing unimaginable suffering and destruction.

Eighty years have passed since the end of World War II, and I feel that many people are forgetting how much damage the war caused. Even in Hiroshima, as time goes by, fewer and fewer people seem to think deeply about war. If we remain silent, peace may slip away.

Today, on August 15th, the day Japan ended the war, I would like to send my prayer for peace from here in Hiroshima.

Both music and words have the power to move people's hearts. I will never stop expressing my desire for a peaceful world. Silence brings no peace.

広島大学附属高等学校 1年 齊藤 瑞乃

平和のバトンをつなぐ世代

80年前、ここ広島で一発の原子爆弾が炸裂し、罪のない多くの市民が犠牲になりました。火傷でただれた皮膚。人が焼ける嫌な匂い。目の前で家族が、友達が、「死にたくない」「助けて」と言いながら、苦しんで死んでいった。想像を絶する惨状だったと思います。

今日、私たちがここに立つことができているのも、被爆者の方々が核廃絶や戦争反対を叫び、今日まで日常を繋いできた結果だと感じています。

私は今、高校生平和大使として、核廃絶と世界平和を目指し、署名活動やスピーチなどを行っています。昨年、日本被団協がノーベル平和賞を受賞されてから、以前の約2倍の方が署名のために足を止めてくださるようになりました。

「核兵器をなくしたい」と願う市民の声が確実に広がっていることに、私たちは希望を感じています。この意識の高まりこそが、核廃絶の第一歩だと信じています。

しかし、被爆から80年経った今も、世界には今すぐにでも使える核兵器が9,600発存在します。それは「核が戦争を防ぐ」とする核抑止論が支持されているからです。でも、本当に核が平和を守るのでしょうか。

「核抑止」はいつ崩れてもおかしくありません。どこかの国が取り決めに破れば、いつでも核を使ってしまう状況であり、事故やシステムミスが起こる可能性がないとは言い切れません。あの日、多くの尊い命が奪われた惨状が再び現実になりうるのです。

同じ過ちを、私たちは絶対に繰り返してはいけません。そうならないために、身をもって語って下さるのが、被爆者の方々です。自分だけが生き延びてしまったという罪悪感を抱えながらも、被爆者は私たちに悲惨な体験を語ってくださいます。全ては、核をなくすためです。

私たちは知っています。命を焼き尽くす核の威力と、心に残る深い痛みを。知っているからこそ、私たち若者が被爆者の思いを引き継ぎ、核のない未来を目指して、声を上げ続けていきましょう。何よりも大切なのは、私たちが平和を願う思いを形にすることです。例えば、原爆や戦争に関する作品を観る。自分から世界情勢のニュースを調べてみる。平和のための署名を試みる。そうした一つ一つの行動が、未来を変える力になります。

今を生きる私たちが、平和のバトンをつなぐ世代です。私たちの切実な想いを、形にしていきましょう。

28代高校生平和大使 ノートルダム清心高等学校 下田梨央

地球村の平和を願って (지구촌)의 (평화)를 위한 (기도)

第二次世界大戦後、国連 (UN) はユネスコ (UNESCO) を中心に、再び戦争の悲劇を繰り返さないよう、平和な時代を築くための努力を続けてきました。

제2차 세계대전 이후, 유엔(UN)은 유네스코(UNESCO)를 중심으로 인류가 다시는 전쟁의 비극을 겪지 않도록 평화로운 시대를 구축하기 위한 노력을 지속해 왔습니다.

しかし、ある時から地球のあちこちで戦争や紛争が再発しているという悲しい知らせが届いています。

그러나 어느 순간부터 지구 곳곳에서 전쟁과 갈등이 재발하고 있다는 안타까운 소식이 들려오고 있습니다.

日本と韓国は長い間、善隣友好の関係を続けてきた一方で、痛ましい歴史的記憶を共有しているのも事実です。

일본과 대한민국은 오랜 시간 선린우호의 관계를 이어온 한편, 아픈 역사적 기억을 공유하고 있는 것도 사실입니다.

こうした傷を賢明に癒し、両国の国民が共感できる客観的でバランスの取れた歴史認識を確立するためには、相互尊重と真摯な対話、そして歴史的事実に基づいた教育と継続的なコミュニケーションが不可欠です。

이러한 상처를 슬기롭게 치유하고, 양국 국민이 함께 공감할 수 있는 객관적이고 균형 잡힌 역사 인식을 정립하기 위해서는 상호 존중과 진정성 있는 대화, 그리고 역사적 사실에 기반한 교육과 지속적인 소통이 반드시 필요합니다.

特に、両国のユネスコの会員は、より活発な交流を通じて平和の重要性を自国民に広め、

平和が途切れることなく続けられるべき人類共通の価値であることを強調すべきです。

특히 양국의 유네스코 회원들은 더욱 활발한 교류를 통해 평화의 소중함을 자국 국민에게 널리 알리고, 평화가 단절되지 않고 이어져야 할 인류 보편의 가치임을 강조해야 할 것입니다.

日本と韓国のユネスコ会員の継続的な交流と協力活動が、東アジアさらには世界の平和の定着と拡大に貢献し、これを通じて平和に対する共感がさらに広がることを心より願っています。

일본과 대한민국 유네스코 회원들의 지속적인 교류와 협력 활동이 동북아시아 나아가 세계 평화의 정착과 확산에 기여하길 바라며, 이를 통해 평화에 대한 공감대가 더욱 널리 확산되기를 진심으로 기원합니다.

今日8月15日、終戦80周年を迎え、私たちはもう一度平和の価値を認識し、この地球村で戦争をなくすために、自分自身が、まず、どうすべきかを考える機会になることを希望します。ありがとうございます。

오늘 8월15일, 종전 80주년을 맞아 우리는 다시한번 평화의 가치를 인식하고, 이 지구촌에서 전쟁을 없애려면 내가 먼저 어떻게 해야 할 것인가를 생각하는 기회가 되기를 희망합니다. 감사합니다.

2025年8月15日

韓国UNESCO大邱協會長 パク・ジョンソク

서기 2025년 8월 15일

한국 UNESCO 대구협회장 박종석

平和の鐘を鳴らそうメッセージ

過去に学び未来の人々へ希望を繋げる

80年前の今日、人々から日常、そして大切なものや人を奪い続けてきた戦争が終結した。今の平和が戦争の犠牲の上にあることをしっかりと胸に刻み、過去に学び未来の人々へ希望を繋げていきたい。

広島大学附属高等学校ユネスコ委員会Ⅱ年 久保山 駿

平和を達成するために力を合わせよう

平和は個人では達成できないが同時に個人の力が必要だ。私達は80年前の悲劇を繰り返さない為に力を合わせなければならない。

広島大学附属高等学校ユネスコ委員会Ⅰ年 岩本 結愛

エネルギーを平和の計画に向け直そう

As we hear the Peace Bell ring, we remember a time when war stopped. After years of suffering at war, and then the instantaneous loss of life, we were promised peace. But like all other times in history, peace was temporary. War returned. All wars are failures.

平和の鐘が鳴るのを聞くと、戦争が止まった時代を思い出します。何年にもわたる戦争での苦しみ、そして瞬時に人命が失われた後、私たちは平和を約束されました。しかし、歴史上の他のすべての時代と同様に、平和は一時的なものでした。戦争が再開した。すべての戦争は失敗です。

Let's create friends from across the globe, united in understanding that war never will be a solution. Let's redirect the energy that goes into planning for war into planning for peace. Peace isn't easy or perfect, but it is not the guarantee of failure that is war.

戦争は決して解決策にはならないことを理解して団結して、世界中から友人を作りましょう。戦争の計画に費やすエネルギーを平和の計画に向け直しましょう。平和は簡単でも完璧でもありませんが、戦争は失敗を保証するものではありません。

Bradley & Susan Cox

Directors, World Friendship Center

ブラッドリー&スーザン・コックス

世界友好センター理事

せんそう ひと こころ なか う
戦争は人の心の中で生まれるものであるから、

ひと こころ なか へいわ とりで きず
人の心の中に平和の砦を築かなければならない。

Since wars begin in the minds of men, it is in the minds of men that the defenses of peace must be constructed.

(ユネスコ憲章の前文より、Preamble of The Constitution of UNESCO)

へいわせんげん
わたしの平和宣言 Manifesto 2000 for a Culture of Peace and Non-Violence

せいめい たいせつ
すべての人の生命を大切にします Respect All Life

ぼうりよく ゆる
どんな暴力も許しません Reject Violence

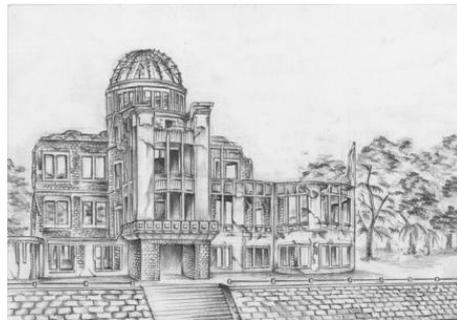
おも こころ も たす あ
思いやりの心を持ち、助け合います Share with Others

あいて たらば た かんが
相手の立場に立って考えます Listen to Understand

ちきゅうかんきょう まも
かけがえのない地球環境を守ります Preserve the Planet

ちから あ
みんなで力を合わせます Rediscover Solidarity

(1998年にノーベル平和賞受賞者が国際人権会議で起草した6項目の誓いより)



広島ユネスコ協会